
田村病院ニュース 5月号

作成日：平成 30 年 4 月 28 日
担当部署：1 病棟

✚ 1 病棟について

1 病棟は、別館の 1 階にある療養病棟で、ご高齢の患者様が多く入院されています。高齢になれば、転倒や転落、誤嚥などの身体合併症が多くおこります。身体合併症を最小限にとどめ、患者さまが笑顔で安全に、ご家族にも安心して 1 病棟での療養生活を送っていただけるよう、スタッフ一同努めています。今回はその一つである、「カンフォータブルケア」についてご紹介します。

✚ 1 病棟の取り組み

カンフォータブルケアの基本技術

- ①常に笑顔で対応する
- ②常に敬語を使う
- ③相手と目線を合わせる
- ④相手に優しく触れる
- ⑤相手を褒める
- ⑥相手に関心を向ける
- ⑦こちらから謝る態度を見せる
- ⑧不快な事は素早く終わらせる
- ⑨演じる要素をもつ
- ⑩気持ちに余裕をもつ

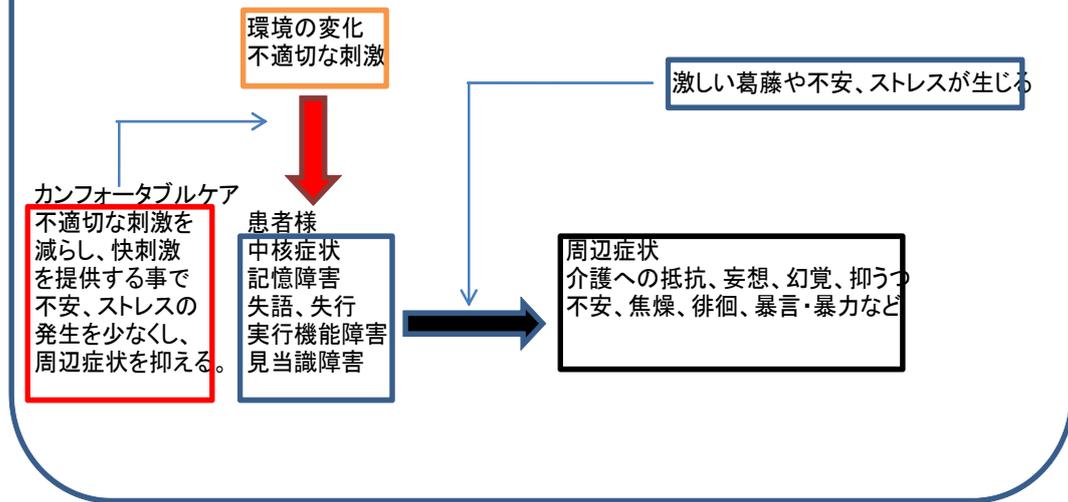
最近では、認知症の周辺症状（興奮、妄想、暴言など）のため、自宅や介護施設での適応が難しくなった患者の入院が増えています。1 病棟では、「認知症患者さまを安全にみるために」どうすれば良いかを考えてきました。

その方法のひとつに、精神科看護の『カンフォータブルケア』技術があります。認知症の根本的な治療薬はなく（進行をゆっくりにする薬はありますが）、発症後は緩やかに進行していきます。認知症の患者さまは、記憶障害から「ここはどこ？あなたは誰？私はなぜここにいるの？」と不安を感じます。そこで、患者さまの不安をできるだけ取り除き、本来のその人らしい穏やかな生活が送れるようにすることを大切にする看護技術が『カンフォータブルケア』

と呼ばれるものです。

カンフォーダブル・ケアとは

カンフォーダブル・ケアとは心地よい、快刺激(カンフォーダブル)を提供することで
周辺症状を軽減させる技術です。
認知症は進行型であり、中核症状から関連する周辺症状が問題になることが多いです。



病棟ホールには OT 作品を展示しています



病棟 OT (リハビリ) 活動の様子



1 病棟スタッフ

(引用文献：精神科看護 43 巻 5 号)